

資料館だより

2026.10.5 No.132 (季刊)

編集・発行 国立ハンセン病資料館

「資料館だより」は、第130号からデジタル版での発行となりました。パソコンやスマートフォンでご覧いただき、個別記事中の「[詳細とお申込は、こちら](#)」等をクリックされますと、当館ホームページや外部サイトに移動します。引き続き、「資料館だより」をご愛読いただけますと幸いです。

国立ハンセン病資料館は、2027年4月の常設展示リニューアルに向けて、
2026年12月1日から2027年3月31日まで休館いたします。

20年ぶりに常設展示室をリニューアルします

当館では、2007年に国立ハンセン病資料館としてリニューアルオープンして以来、約20年ぶりとなる常設展示のリニューアルを進めています。

リニューアルに向けては、厚生労働省が2020年11月、有識者などからなる「国立ハンセン病資料館常設展示見直し検討会」を設置しました。約3年にわたる検討を経て、2023年8月に「最終報告書」が取りまとめられました。その後、2024年2月から2026年3月にかけて、有識者と当館学芸員により展示の基本計画を策定しました。現在は実施設計に基づきリニューアル工事に向けた準備を進めています。

今回のリニューアルでは、展示の冒頭に「ハンセン病問題とは何か」という問いを掲げます。ハンセン病問題とは、国による隔離政策によって、ハンセン病患者・元患者とその家族が、長期にわたって深刻な人権侵害を受けた問題です。病気そのものだけではなく、隔離政策や差別・偏見が人びとの人生に何をもたらしたのかを、歴史的な経緯とともに伝えます。

展示全体を貫くコンセプトは、「その声が聞こえますか？／その声を語り継ぐのは私」です。療養所で暮らした人びと、その家族など、さまざまな立場の人びとの「声」に耳を傾けながら、ハンセン病問題を考えることのできる展示を目指します。

これまでの展示では、とすると「優しい人になりましょう」といった道徳的なメッセージとして受け取られる部分もありました。今回のリニューアルでは、そうした側面を見直し、ハンセン病問題を、誰もが「人権」の問題として考えることのできる、より普遍的な問題として示します。

2026年12月1日から2027年3月31日までの4か月間、当館は常設展示室リニューアル工事のため休館します。そして、2027年4月1日のリニューアルオープンに向けて、現在、作業はいよいよ大詰めを迎えています。

新しく生まれ変わる常設展示室で、ハンセン病問題の歴史と、そこを生きた一人ひとりの声に出会っていただければと思います。

(木村哲也)

残り2か月、皆さまのご来館をお待ち申し上げます。

企画展「ハンセン病療養所のなかの「外国人」」開催中

7月18日から、企画展「ハンセン病療養所のなかの「外国人」」を開催しています。本展では、療養所で暮らした在日朝鮮人をはじめ、ロシア、インドネシア、台湾などにルーツを持つ人びとに光を当て、過酷な隔離政策のもとで生きた一人ひとりの姿を、資料や文学、生活道具などを通して紹介しています。

開幕以来、多くの方にご来館いただき、連日盛況となっています。新聞・雑誌・ラジオ番組などでも多数取り上げられ、企画展への関心の広がりを感じられます。

関連イベントも続きます。10月25日には星名宏修氏ほしなひろのぶによる講演会「植民地期台湾のハンセン病文学」、11月14日にはソウル・フラワー・ユニオンなかがわ たかしのなかがわ氏による弾き語りソロライブを開催します。さらに11月23日には、台湾のハンセン病療養所を題材としたドキュメンタリー映画「大風之島」おおかぜのしまの上映会を予定しています。企画展とあわせて、ぜひご参加ください。（木村哲也）

[企画展と関連イベントの詳細及びお申し込みは、こちら（資料館HP）](#)



8/22アーサー・ビナード氏トーク



ギャラリートークの様子

● 関連イベント（ギャラリートーク以外は、事前申込が必要です） ●



ほしなひろのぶ
星名宏修（一橋大学教授）
講演会

「植民地期台湾のハンセン病文学」

10月25日（日）

14:00～15:30

会場：当館映像ホール
（定員140人）

※申込受付中



なかがわ たかし
中川 敬（ソウル・フラワー・ユニオン）
弾き語りソロライブ

11月14日（土）

15:00～16:00

会場：当館映像ホール
（定員140人）
※申込受付中

木村哲也（担当学芸員）によるギャラリートーク【残り3回】 **10/17、11/22・28** すべて14:00から（45分）
会場：国立ハンセン病資料館 企画展示室 事前申込：不要

10月・11月の常設展示解説 ー常設展示リニューアル前、最後です！ー



展示室3の解説の様子

学芸員が常設展示室を解説します。展示室2では、入所の経緯、雑居生活、患者作業、優生手術など、入所者が受けた「人生被害」について解説します。展示室3では、入所者が団結して人権を獲得してきた患者運動やハンセン病国賠訴訟・家族訴訟、個々の入所者が尊厳を回復してきた文化活動について解説します。10月24日と11月3日は1日で両方の解説を聞くことができます。リニューアル前の最後の機会です。ぜひご参加ください。（田代学）

【日程】◆展示室2、★展示室3 各回30分程度

10月12日（祝） ★13:30～ **10月24日（土）** ◆11:30～、★13:30～

11月21日（土） ◆11:30～ **11月 3日（祝）** ◆11:30～、★13:30～

11月29日（日） ★11:30～

※リニューアル前最終開館日

【定員】各回先着20人（開始30分前から資料館受付で整理券を配布）

[詳細は、こちら（資料館HP）](#)

らい予防法廃止30周年記念イベント 記録映画「見えない壁を越えて 声なき者たちの証言」上映会

ハンセン病患者を強制隔離した「らい予防法」が廃止されてから、2026年で30年を迎えました。

本上映会では、この節目にあらためてハンセン病問題の歴史を振り返ります。上映する『見えない壁を越えて 声なき者たちの証言』（1時間版）は、1998年に制作された記録映画です。当事者へのインタビューや当時の記録映像を通して、長年にわたる隔離政策のもとで生きた人びとの声を伝えます。

また、全国ハンセン病療養所入所者協議会前会長・森和男氏からの動画メッセージも紹介します。

らい予防法廃止から30年。当事者の声に耳を傾けながら、今も続く偏見や差別、人権について考えてみませんか。（牛嶋渉）

[詳細及びお申し込みは、こちら（資料館HP）](#)



【日時】 2026年11月7日（土）

13:30～15:15（開場13:00）

【会場】 当館映像ホール

【定員】 100人（先着順）

※本イベントでは、上映形式上、会場設備等の都合により、字幕及び手話通訳による情報保障は実施しておりません。あらかじめご了承ください。

秋も開催決定！ 多磨全生園の史跡ガイドツアー

AM・教職員の方
PM・どなたでも

当館に隣接する国立療養所多磨全生園の史跡を学芸員がご案内します。

入所者の方々のあゆんだ歴史や想いに触れながら、紅葉の美しい園内を歩きませんか。（占部好子）

【日程】 2026年11月15日（日）

【対象と時間】

①教職員の方 9:30～12:30

「教員のための博物館の日」として実施します。



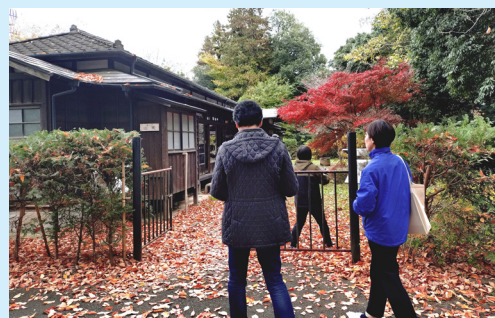
②どなたでも 13:50～16:20（手話通訳付）

手話通訳は開催2週間前までにお申し込みください。



【定員】 各回30人（先着順・無料）

[詳細及びお申し込みは、こちら（資料館HP）](#)



入所者が暮らした寮（復元）の部屋の中にもご案内します

国立ハンセン病資料館・開館カレンダー

[開館日・イベント開催日は、こちら（資料館HP）▶](#)

国立ハンセン病資料館「お知らせメール」では、
「資料館だより」を含めた
最新の情報をお届けしています。

[「お知らせメール」の詳細と登録は、こちら（資料館HP）▶](#)

国立ハンセン病資料館公式SNS
フォローやシェアをお願いします！

[Facebook▶](#)

[X▶](#)

[Instagram▶](#)

[YouTube▶](#)

図書室より-北條民雄『いのちの初夜』刊行90周年記念イベント-

北條民雄『いのちの初夜』刊行90周年を記念して、11月21日（土）14時から朗読会（定員130人）を、11月29日（日）14時から読書会（定員17人）を開催します（いずれも、先着順・要事前申込）。

強制隔離時代のハンセン病療養所に入所する青年の最初の一夜を描いた本作は、川端康成によって見いだされ、文壇に衝撃を与えました。人生を揺るがす困難に直面した主人公の心の揺れ動きが、今なお普遍的な共感を生んでいます。

朗読会では、本作の全文朗読を行います。飯干大嵩さんによる迫真の朗読によって、生き活きと浮かび上がる作品世界をお楽しみください。

昨年開催した読書会では、「他の人の意見を聞くことで、平面的だった読みが立体的になった」「本作を通じて、参加者のみなさんの人生観にふれられたのがうれしかった」などのご感想をいただきました。

作品やハンセン病問題への理解を深めるとともに、参加される皆さまそれぞれが抱えている社会的課題への糸口が見つかるイベントにできればと思います。

（長谷川秋菜）

[詳細及びお申し込みは、こちら（資料館HP）](#)



『いのちの初夜』

好評上映中

アニメーション動画「ある家族の物語」

当館では、本年8月から国立療養所長島愛生園の体験型展示施設「でんしょう愛生館」内で上映されているアニメーション動画「ある家族の物語」（約30分）をお借りして、館内1階ギャラリーでリピート再生しています。

時代は戦前、ある少年はハンセン病と診断されます。彼が長島愛生園に収容される過程を患者自身とその家族の視点、さらには周辺住民の視点で描きます。

握りこぶしをつくり、背筋を伸ばして真剣に見入るお子さんの姿もしばしば。当館の開館時間中、自由にご覧いただけます。12月からはしばらくご覧いただけなくなりますので、お誘い合わせの上、ご来館ください。



お知らせ

「資料館だより」は、第130号からデジタル版（PDF）での発行となりました。資料館HPから閲覧・ダウンロードが可能です。[「資料館だより」バックナンバーは、こちら（資料館HP）](#)

国立ハンセン病資料館 利用案内

■開館時間 9:30～16:30

■入 館 無料

■休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■交 通 ・西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分（「ハンセン病資料館」下車）
・西武新宿線 久米川駅北口より 西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分（「ハンセン病資料館」下車）
・JR武蔵野線 新秋津駅より 徒歩約20分

[利用案内の詳細は、こちら（資料館HP）](#)



〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13 TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981 URL <https://www.nhdm.jp/>